

衛星通信のマナーについてお願い

昨今、衛星通信もインターネットの普及、軌道ソフトの劇的な進化やドップラーシフト補正ソフト（リグコントロールソフト）の普及により衛星モードの運用者が増えるのは大変ありがたいことですが、衛星通信に対する昔からの慣習（マナー）を理解されていない方が増えているのも事実です。皆様が快適に衛星通信を出来るようにマナーについて記載しました。衛星通信を始めた方、これから始める方も是非一読していただきますようお願いいたします。

1、地上波（HF帯等）と同様な基本のマナー

- ①他人へのコールバックに応答しない。（きちんと確認出来てから応答しましょう）
- ②CQはバンド内良くワッチしてから出しましょう。（他の局にかぶっている局がいます 2-⑦参照）
※衛星特有のドップラーや衛星の回転から来るQSB等受信困難な場合がありますがこれは守って頂きたい。
- ③移動局などに短点の連続は妨害行為なのでやめましょう。（CQの上に短点を打つのは呼ぶ意思表示を意味します。）

2、トランスポンダ搭載衛星特有のマナー（SSB・CW衛星）

- ④送信出力は必要最小限にしましょう。
 - ・自分のループの信号をピーコンの強さか、それ以下にするよう適時調整しましょう。
自分のループが聞こえないからと出力をむやみにあげない。（アリゲーターと言います。）
出力を上げるよりアンテナ強化やプリアンプを使うなど受信性能の向上に注力しましょう。
 - ・過度な出力は衛星の寿命を短くします。
 - ・過度な出力は衛星のAGC（自動利得制御機能）を作動させ、同時に使用している局に迷惑がかかります。
- ⑤ループ確認時は短時間で終了させましょう。（ループ確認＝自分の電波が衛星経由で受信出来るか確認する事）
 - ・自分のループ（衛星のダウン信号）が聞こえない時にはむやみに送信しない。
※ピーコンや他の局が聞こえるか確認しましょう。
 - ・ループ確認は出来るだけバンドエッジ付近で速やかに
- ⑥移動局を呼ぶ時は既に交信済みJCC/JCGの場合は別衛星でも出来る限り、ATNO（Any Time New One）の局に譲ってあげましょう。
 - ・呼ぶ局がない場合はドンドン呼びましょう！
- ⑦衛星はドップラー効果により周波数が時々刻々と変化しますので周波数がずれて呼んでくるのは当たり前です。受信は広い周波数を聞くようにしましょう。
 - ・CWフィルターは入れないもしくはUSBモードで受信する。
 - ・USB/CWが混在していますので、USBモードの方がSSB局も受信出来るのF Bです。
- ⑧CWのCQ局へ応答は可能な限りスピードを合わせましょう。
 - ・衛星は10～20分しか運用出来ませんので移動局は高速です。
 - ・高速でも自分のCALLは取れると思いますので挑戦しましょう。（ほとんどの交信が599BKタイプです）
 - ・超高速局もありますがそれは自分の取れる限界で・・・（笑）
- ⑨応答するタイミングもTPOに合わせましょう。

1CQ/1CALLで皆さん効率的な運用されています。（どのような運用されてるか受信してみましょう）
HFみたいにタイミングをずらして遅れて呼んだりしても取ってもらえる訳ではありません
- ⑩アップリンクの信号を出しながらダイヤルを回している局がいます。これは迷惑行為です。

3、FM衛星特有のマナー

- ⑪FM衛星は使用できる周波数が1波のみです。譲り合いは当たり前、優先権はありません。

アマチュア衛星を使用した通信が始まって約40年 これからも健全に衛星通信が出来ますように希望しております。
このマナー啓蒙は、衛星通信をしている有志で書かせていただきました。お互いマナーを守って衛星通信を楽しみましょう。73